

「神の愛は大きい！」 ～私たちは愛されている～

エペソ3：17～19

今年（2011年）は津高リバーサイトチャーチの母教会である草加神召キリスト教会の開拓が開始してから20年を迎えます。スタートは1991年6月でした。斯く言う私も草加神召キリスト教会で救われた一人です。私が教会に初めて行ったのは開拓が始まってまもない7月の礼拝でした。私は中学がミッションスクールだったので、道徳の時間の代わりに聖書を勉強する授業と礼拝の時間がありました。道徳の授業にも学期末になれば課題の提出をしなければいけませんでした。課題は近くの教会の礼拝に出席し、感想文を書くことでした。家の近所に教会ができたので、課題のために出席しました。それが草加神召キリスト教会でした。当時はまだ中学3年でしたが、学校ではいじめを受け、将来に希望もなく、自殺願望の中で日々過ごしてきました。そんな中で、礼拝に出席した私を教会のみなさんは暖かく迎え入れてくれました。そこが私にとってなくてはならない場所になりました。しばらく教会に行っていた時にイエスキリストと出会い、信仰告白し約20年もの時が経過しました。その20年間の中にもいろいろな事がありました。そのような中においても神の愛はいつも私に向けられ、私のために祈ってくれている人々がいました。その事に気がついた時、神の愛は大きいと感じました。（エペソ3：17～19）「すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力をもつようになり、人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができるようになります。（エペソ3：18）」今日のタイトル「神の愛の大きさ～あきらめてはならない～」です。今までの人生を振り返ってみましたが、私自身が感じていることは、神の愛は大きいということでした。時にこれが愛なのかと思うようなこともありましたが、全ては私に必要な愛であったのです。これこそ、今日読んだ、人知をはるかに超えたキリストの愛です。「ヨハ 14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。」と書いてあります。神は愛している私たちを見捨てはしません。神さまは私たちを愛していて、私たちに向かって両手を広げて待っていてくれるお方です。私たち自身がイエス様の胸に飛び込むだけです。しかし私たちを邪魔するものがあります。それが感情です。「私にはイエスキリストの愛を受けるのにふさわしくない」「こんな状態では愛されない」と思うてしまうことはないでしょうか。これは神の愛を自分自身の思いの中で小さくしてしまうことです。今日読みました聖書にも書いてありますが、神の愛は人知をはるかに超えているものです。私たちが経験してきた「give&takeの愛」ではなく、神の「無条件の愛」を受け取っていきましょう。そしてこの愛を受け取った後、どのように歩んでいけばいいのでしょうか。イエスキリストは復活した後、イエスの十字架を前にして3度も裏切ったペテロの前に立ちました。イエスはペテロを責める事をせず、もう一度やり直すチャンスを与えました。それを伝えるためにガリラヤ湖畔まで来てくれました。また復活したイエスキリストの手の釘の痕に指を入れなければ信じないと疑ったトマスの前にも現れました。トマスはその後どのように歩んでいったのでしょうか。伝承によれば、現在のインド方面にイエスキリストを伝えにいき、殉教したと言われていいます。その他の弟子たちはいかなる迫害にあつたとしても信仰の道から逸れることなく歩み通していきました。また姦淫の現場で捉えられた女性がイエスの前に連れて来られました。この時も女性はイエスキリストによっていのちを得ました。その後、高価な香油でイエスの足を拭うほど、感謝を持って生きていました。イエスの愛を大きさを知ったからこそ、感謝も大きく現して行く事ができました。私たちもイエスの愛を知り、愛に恋えて生きていきたいとだんだん思っていきます。しかし私たちは自分の感情によって愛を表すことができたりできなくなったりします。正しいことは分かっている、知っています。しかし自分の思いが勝ってしまう事がないように注意しながら歩んでいきましょう。自分の思いに負けそうになる時に、自分が愛されていることを思い出しましょう。そうすれば、もう一度、愛する事ができるようになります。私たちに良くしてくれた人に愛を表すことは誰もができることです。私たちは無条件の愛を受けたのですから、いつもどんな時も同じ愛を表していきましょう。（ヨハネ15：13）「人が友のために命をすてるというこれよりも大きな愛を誰も持っていません。」これはただの良い言葉ではなく、実際に十字架に架かり、いのちがけの愛を示してくれました。私たちはこれほどの大きな愛を受けているのです。まずは私たちの心が愛にあふれるように求めて行きましょう。そしてあふれる愛によって周りの方々へ流していきましょう。自分が満たされていないの愛を流していくことはできません。この愛を求めていきましょう。そしてその愛が私の周りの人に流しながら歩んでいきましょう。（要約者：平澤一浩）